

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域社会に貢献する、自立した人を育てる高校 地域社会とのつながりや人との出会い、多様な学びを通じて、主体的に学び、自らの人生を切り拓くたくましさを育み、地域社会を支える人づくりをめざす。 【育てたい力】 ○多様な価値観を尊重し、違いを豊かさにして、協働できる力 ○自分の考えを的確に人に伝えたり、傾聴できるコミュニケーション力 ○地域や社会に関心を持ち、参画、貢献しようとする意欲と実行力 ○豊かな人権感覚・人権意識

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成と進路実現 (1) リーディングギガハイスクール（以下LGH）に指定されている現状を生かし、ICTを活用したわかりやすい授業の実施とともに1人1台端末の積極的な活用を図る。観点別評価を取り入れた授業展開を行うとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、自分で調べ、考え、表現・発表する力を育てる授業を行う。 ア 学習指導部と首席を核に、公開授業、研究授業及び授業アンケート等を活用し授業改善に組織的に取り組むとともに、観点別評価の適切な実施に取り組む。 ※ 学校教育自己診断（生徒）の「授業はわかりやすい」の肯定率を令和8年度で75%以上。(R3 59.8%、R4 59.3%、R5 66.8%) ※ 学校教育自己診断（生徒）の「生徒の学力を伸ばすために工夫が感じられる」の肯定率を令和8年度で80%以上。(R3 69.5%、R4 67.8%、R5 72.8%) イ 情報処理委員会及びLGHに伴う校内研修を活用し、ICTのより積極的な活用に組織的に取り組むとともに、1人1台端末の適切な活用に取り組み、教員のタブレット活用力の向上を図る。 ※学校教育自己診断（生徒）に新設した「授業では、ICT機器が活用されている」の肯定率を令和8年度で90%以上。(R5 88.1%) ※学校教育自己診断（生徒）に新設した「1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率を令和8年度で80%以上。(R5 75.9%) (2) 「いずれは就労する」ことを意識させ、進学先を決定するだけでなく、自身のキャリアを意識した進路選択ができるよう進路学習の充実を図る。 ア 1年時から「総合的な探求の時間（発見）」の時間を活用し、地域企業の人事担当者や各種学校の広報担当者及び卒業生等の話を実際に聞く機会を多数設け、職業体験等の職業理解の取り組みに参加させることで、就労意識や自身のキャリアについて早期の育成を図るとともに、継続的に実施していく。 イ キャリア教育に関する取組の前後の指導を充実、徹底させ、生徒のニーズに応じた情報提供や相談を実施することで、生徒一人ひとりの自己実現を支援する。 ※学校教育自己診断（生徒）の「進路に必要な情報や機会を提供している」の肯定率を令和8年度で95%以上。(R3 92.3%、R4 88.2%、R5 86.0%) ※学校教育自己診断（生徒）の「進路相談やホームルームなどで熱心に進路指導している」の肯定率を令和8年度で85%以上。(R3 82.2%、R4 74.0%、R5 73.2%) ※学校教育自己診断（生徒）の「生き方や将来について考える機会が十分にある」の肯定率を令和8年度で95%以上。(R3 90.6%、R4 83.4%、R5 87.6%) ウ 資格取得（特に英語検定）の支援に努めるとともに、進学希望生徒の計画的講習など適切な学習機会の提供を行う。 ※「英語検定」受験者の増加及び合格率の維持（R4 57人；39%、R5 159人；33%） 2. 安全安心で魅力ある学校づくり (1) 生徒一人ひとりが、学校行事やクラス活動等の様々な活動の中で自らの課題に向き合い、その課題を解決しようとする意欲を育み、他者を大事にして生徒同士がつながる取組みを推進する。 ア 生徒の学校生活満足度を高め、自分自身も他者も大事にしていく意識を育む集団づくりの取組みを一層推進する。 ※学校教育自己診断(生徒)の「金剛高校の教育に満足している」の肯定率が令和8年度で85%以上。(R3 84.8%、R4 72.8%、R5 73.7%) ※学校教育自己診断(生徒)の「クラスやクラブは一人ひとりが尊重され、気軽に話せる集団である」の肯定率が令和8年度で90%以上。(R3 84.8%、R4 79.3%、R5 83.0%) イ 校内の環境及び施設設備を充実させ、部活動を活性化させる。 ※部活動の加入率を令和8年度で60%以上。(R3 62.7%、R4 56.9%、R5 55.2%) (2) あらゆる教育活動を通じて、生徒の人権を大切にした指導を徹底するとともに、人権教育を計画的に推進する。また、SNS等に関わる問題について、早期から継続して啓発、指導を行うことで安心できる学校生活につなげる。 ア 人権計画、生徒への啓発活動（SNSの使用等）の改善を図り、人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、人権HRや発見の内容の見直し、充実により様々な人権問題）の解決につながる教育活動を推進する。 ※学校教育自己診断(生徒)の「人権について学ぶ機会があり、さまざまな人権問題が理解できるよう工夫されている」の肯定率が令和8年度で90%以上。(R3 89.0%、R4 72.5%、R5 87.2%) イ 人権教育推進委員会、教育相談委員会等を活用し、生徒の個別の状況を把握、共有し、個に応じた適切な指導を、組織的にかつカウンセリングマインドをもって行い、SCやSSWの活用及び外部連携を図ることにより、生徒の状況の改善、学校生活の安定に努める。 ※人権教育推進委員会、教育相談委員会等を定期的に開催し、確実な状況把握と迅速な対応の検討を行う。 ※学校教育自己診断(生徒)の「先生はいろいろな問題（いじめ等）を見逃さず対応してくれ、相談に親身になって応じてくれる」の肯定率が令和8年度で85%以上。(R3 80.3%、R4 75.8%、R5 80.7%) (3) 地域コミュニケーションコースに限ることなく、地域等とつながる取組みを進め、地域社会に貢献する意識を醸成する。特に、地域コミュニケーションコースについては、地域の各施設との連携をより充実させていく。 ア 近隣地域の活動や校内で実施する地域の保育所や介護施設等と連携した活動においては、地域コミュニケーションコース以外の生徒も参加できるような形を作っていくことで、地域に貢献する姿勢を育む。 ※学校教育自己診断(生徒)の「授業や部活動などで、他の学校や地域の人々とかかわる機会がある」の肯定率が令和8年度で70%以上。(R3 59.3%、R4 57.5%、R5 59.3%) ※地域のあいさつ運動・清掃活動等を継続、実践するとともに、地域の義務教育諸学校等との連携会議等も活用し、情報発信する。 イ 地域コミュニケーションコースの充実を図るため、外部講師の活用だけでなく、地元や近隣の学校園等と連携する取組みや地域の保育所や介護施設、小学校などと連携した授業や活動を充実させるための取組みを進める。 ※近隣の学校園、保育所や介護施設等と連携した活動機会の増加と連携内容の充実 3. 規範意識の醸成と自主性・主体性の育成 (1) 理解・納得に基づく生徒指導による生活習慣の形成及び規範意識の醸成とともに、高校生として望ましい態度とマナーを育成する。 ア 「ダメなものはダメ」の指導方針を教職員全体で共有しつつ、画一的に罰則を与える指導ではなく、ダメな理由を適切に理解させられるよう、個々の生徒の課題を踏まえ、生徒や保護者の思いをくみ取った、対話を重視した生徒指導を行う。 ※学校教育自己診断（生徒）の「学校生活全体に対する先生たちの指導は、自分やみんなの将来を考えると適切である」の肯定率が令和8年度で85%以

府立金剛高等学校

上 (R3 78.4%、R4 64.6%、R5 68.8%) ※学校教育自己診断 (生徒) の「遅刻・頭髮・服装・原付免許の指導は、自分や全体のことを考えると適切だと思う」の肯定率が令和8年度で70%以上 (R3 64.0%、R4 49.5%、R5 60.9%) イ 遅刻等の状況を改善するとともに、授業規律を確立させる。 ※遅刻件数を令和8年度には700回以下とし、それ以降も毎年減少させる。(R3 495回、R4 865回、R5 961回) ※学校教育自己診断 (生徒) の「生徒が集中できるように、授業の規律を守っている」の肯定率が令和8年度で95%以上。(R3 83.7%、R4 82.1%、R5 90.9%) ※学校教育自己診断 (生徒) の「授業は静かで、勉強に集中できる状況である」の肯定率が令和8年度で80%以上。(R3 77.1%、R4 63.4%、R5 67.8%) (2) 共生推進教室の取組みの充実を図り、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進し、生徒支援の充実を図る。 ア. 共生推進教室で学ぶ生徒への適切な指導、必要な支援を通じて、自己理解と社会参加への自信、就労への意欲を育てる。 ※共生推進教室で学んだ生徒の就労先、進路先の確保100%を維持する。 ※共生推進教室生徒授業アンケートで、「授業を受けて良かった」の肯定率が令和8年度で75%以上。 イ. 共生推進教室で学ぶ生徒との日常的な交流を通じて、全ての生徒に障がいのある人への理解、共生の意識を育む。 ※人権侵害事象を生起させないことは当然であるが、クラス活動や学校行事において協同して取り組めるよう意識を醸成するような行事運営
4 教職員の組織的・継続的な人材育成等 (1) 教職員の組織的・継続的な育成を行う。 ア 教職経験年数の少ない教職員について、研究授業及び校内研修の機会や分掌業務等のOJTを基本に、全教員がかかわる形で育成する。 イ 本校における経験年数の少ない教職員を学校組織の中核として配置できるよう、教職員の連携と協力体制を密にし、課題解決を意識した業務遂行等を通して、ミドルリーダーを育成する。 ※ 学校教育自己診断(教職員)の「先生は、お互いに協力し合っている」の肯定率が令和8年度で90%以上。(R3 78.2%、R4 69.0%、R5 84.1%) (2) 教職員の働き方を改革する。 ア 教職員の長時間労働を改善するため、行事の精選、行事における業務分担の検討など業務全般を見直し、教職員に業務の工夫・改善を促す。 イ 大阪府部活動の在り方に関する方針に基づき、適切な部活動の実施を徹底し、ペアリングによる合同部活動の趣旨も生かした対応を図ることで、部活動による長時間勤務の縮減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
○生徒アンケート結果から、「金剛高校の教育に満足している」78.4%と5ポイントの増加であった。カリキュラムに関する質問については、85%前後となっており、多くの生徒が肯定的に捉えている。 授業に関して「授業はわかりやすく、学習する意欲がわく」、「授業は、生徒の学力を伸ばすために工夫が感じられる。」、「授業は静かで、勉強に集中できる状態である」、「生徒の学力を伸ばすための熱意のある先生が多い」について増加傾向ではあるが、7割前後の生徒しか肯定的に捉えていない。特に「教室はきれいで、授業するのにふさわしい環境である」について、65.9%と7割を切っており、日常的な清掃や、教室の整理整頓について、生徒に任せるだけではなく、教職員も一緒にかかわっていく必要がある。 一人1台端末を利活用されていると感じており、昨年度から8ポイント以上の上昇である。 ホームルーム活動や総合的な探究の時間「発見」に関しても、85%以上の肯定回答を得ており、上昇した。 「先生はいろいろな問題（いじめ等）を見逃さず対応してくれ、相談に親身になって応じてくれる」は79.6%（+3.2）、「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる」は73.1%（+2.3）であったが、8割に至っておらず、授業以外での生徒とのコミュニケーションを増やす必要がある。 ○保護者アンケート結果では、「金剛高校の教育に満足している」について、84.6%と4.2ポイント上昇している。 「先生は、お互い協力し合っている」について、72.9%(▼2.0)であり、年々減少している。 授業に関する質問については、生徒と同様に、65%を下回っており、減少傾向にある。生徒が家庭でも肯定的に話していないと思われる。 進路指導に関する質問では、60～65%程度の肯定率となっており、校内で行われている進路指導の内容が、保護者には伝わっていないようである。 様々な面で、外部、保護者への発信が重要な課題である。 生徒指導面では、肯定率75.2%と+6.0であり、本校の指導への理解は一定数増加している。 学校行事については、肯定率89.3%(+3.1)であり、学校行事に関しては一定の理解が得られている。 ○教員アンケート結果から カリキュラムに関する質問について、肯定率63.6%で、生徒にあった科目設定になっていないと感じている教員が一定数いることがわかる。また、「他の学校にない特色を築いている」については、48.5%と昨年度から12.9ポイント減少しており、学校の在り方について、教員が満足していないと思われる。 授業に関する質問について、それぞれ90%以上の肯定回答率であり、生徒や保護者の肯定率との乖離が大きくなっている。 「コンピュータ等のICT機器を、授業などで活用している」は、93.9%と7.5ポイント上昇しており、授業におけるICT機器の活用は進んでいると思われる。 「生徒のいろいろな問題（いじめ等）を見逃さないようにし、親身に相談するようになっている」は84.8%(▼10.7)であり、この原因を解消し、対生徒との時間を作る必要があると思われる。 「遅刻・頭髮・服装・原付免許の指導の規則は適当だと思う」は、93.9%と、21.2ポイント増加している。 「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談できる」について、84.8%と8割を超えている。 ※各アンケートを比較すると、授業、進路指導、教育相談については、80%以上の肯定回答であったが、生徒、保護者は70%前後となっている。この乖離については、真摯に受け止める必要がある。	第1回 令和6年7月6日（土）実施 ○道路交通法改正を踏まえた自転車マナーや規範意識について（学校側の状況報告後） ・学校近くの状況だけだが、挨拶をしていく生徒も多いし、坂道でスピードは出ていることはあるが、声をかければ素直に反応する生徒がほとんどである。 ○今年度の生徒の様子について（学校側の状況報告後） ・様々な配慮が必要な生徒が増えているとのことであるが、生徒指導方針も変更されているので、個々の生徒の状況を見て対応していると考えている。次回に、状況を知らせてほしい。 ・転退学者数が多いとのことだが、退学後の状況はどうか。（※ほとんどが私学の通信制への転学になっている。） ・中学生も卒業後の進路として単位制の学校を選ぶ生徒は年々増えている。 第2回 令和6年11月15日（金）実施 ○部活動の加入者数が年々減少していることについて ・クラブに入らない生徒はアルバイトをしていることが多いのか。⇒すべてではない ・中学校でもクラブに入らなくなっているの、なかなか難しいと思われる。 ○生徒の様子について （※生徒対応を見直しているの、今年、クレームやもめるということはほぼなくなっている。） ・個々の状況を見て丁寧に対応するように変わってきていることが大きいと思います。引き続き我慢強い対応をお願いする。 第3回 令和7年3月8日（土）実施 ○学校教育自己診断の保護者、教員の回答数について ・回答数が少ない、特に教員は全員が答えるべきである。保護者については設問が答えにくいことが理由として考えられるのではないかと。⇒ 教員については、職員会議の場で時間を取って全員回答をめざす。保護者については、設問の表現を工夫し、回答しやすい表現とする。 ・「金剛高校の教育に満足している」や生徒指導の規則等については、大きく肯定率が増加しており、生徒指導に関しては教員の肯定率も大幅に増加しており、学校が変わってきていることは感じ取られ、良いことだと思う。ただ、授業の状況に関する設問の肯定率に関して、生徒と教員の乖離が激しい。教員の回答率を上げ、授業の改善点に真摯に目を向けるべきである。 ・ICT活用については進んでいるが、ICTによらず、生徒との直接対話にも力点を置くことが重要ではないか。 ○次年度の計画について ・生徒指導体制の変革や不登校対応などは、継続して、より進めていくことはよいと思う。 ・キャリア教育の充実や外部の方の話を聞く機会を増やすことは、非常に良いことであり、しっかり取り組んでほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1. 確かな学力の育成と進路実現	(1) ICTを活用した「わかる」授業づくりと「主体的・対話的で深い学び」の推進 ア LGH事業を活用した組織的な授業改善と観点別評価の実践と活用 イ ICT活用と1人1台端末の活用 (2) キャリア教育の充実による進路指導 ア 外部人材等を活用した職業理解に基づく就労意識の醸成、進路選択の意識の醸成 イ キャリア教育の充実と自己実現の支援 ウ 資格取得支援と進学向け学習機会の提供	(1) ア・LGH事業による研究授業・公開授業の積極的な実施と観点別評価の適切な実施に加え、授業アンケートの結果のフィードバックや授業観察を活用し、確実な授業改善を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業を推進する。 ・教員研修・協議による情報交換や情報共有を通して、観点別評価方法の充実及び徹底を図る。 イ・LGH事業による研修等で、優れた実践例の共有を行い、教員相互の支援によりICT活用のボトムアップを図る。 ・併せて、1人1台端末の活用についても、好事例の共有と相互支援により、活用力の向上に努める。 (2) ア・発見の時間を活用し、外部の方や卒業生の話を聞く機会をできる限り設け、その事前事後の指導の充実を図る。 イ・アの機会を有効に活用し、ニーズに合った情報提供や進路相談等の機会を設定し、一人ひとりが自身キャリアについて考えることができるように取り組む。 ウ・英語科の少人数展開を活用した丁寧な指導により資格取得の意識の醸成とそれに伴う自己実現への意識の醸成を図る。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「授業はわかりやすい」の肯定率70%以上。(66.8%) ・学校教育自己診断(生徒)「生徒の学力を伸ばすために工夫が感じられる」の肯定率75%以上。(72.8%) ・授業力向上・授業改善及び観点別評価のための研修等3回[2回] イ・学校教育自己診断(生徒)「授業では、ICT機器が活用されている」の肯定率90%以上。(80.3%) ・学校教育自己診断(生徒)「1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率78%以上。(71.1%) ・タブレット活用のための研修等3回[3回] (2) ア・外部の方の話を聞くこと、職業体験等の機会設定を5回以上[1回] イ・学校教育自己診断(生徒)「進路に必要な情報や機会を提供している」の肯定率90%以上。(85.3%) ・学校教育自己診断(生徒)「進路相談やホームルームなどで熱心に進路指導している」の肯定率78%以上。(73.2%) ・学校教育自己診断(生徒)「生き方や将来について考える機会が十分にある」の肯定率90%以上。(84.3%) ウ・英語検定受験者の増加(159人) 英語検定合格率の維持(33%)	(1) ア・「授業はわかりやすい」の肯定率は67.3%と微増、2年生のみが70%を下回った。1,3年生は目標値を上回っている。(△) ・「工夫が感じられる」の肯定率は74.6%、1年生は82%と前年+10となっている。(○) ・授業改善に向けた研修等は3回公開授業期間も2回実施(○) イ・「ICT機器が活用されている」の肯定率は88.1%と大きく向上し、ほぼ活用が図れた。(○) ・「1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率86.1%(○) ・研修は4回実施(○) (2) ア・外部の方の話を聞く機会4回、職業体験1回、校長講話を2回実施。(○) イ・「提供している」の肯定率は86.2%。(△) ・「熱心に進路指導している」の肯定率76.9%。(△) ・「考える機会が十分にある」の肯定率は87.8%。(△) ウ・英語検定受験者75人(△) 英語検定合格33人、合格率44%(○)
2. 安全安心で魅力ある学校づくり	(1) 生徒が他者を大事にして生徒同士がつながる取組み ア HR活動及び学校行事の充実 イ 部活動の活性化 (2) 人権教育の推進 ア 様々な人権課題の解決を推進 イ 個別の支援が必要な生徒への対応 (3) 地域等とつながる取組み ア 地域等との連携 イ 外部連携を活用した選択科目の充実	(1) ア・生徒の意見を取り入れた行事運営を基本に他者を大事にして、皆が楽しく、参加し活躍できる行事運営を生徒にも考えさせ、実践させる。 ・クラス活動やクラブにおいても、生徒のリーダーシップを育成できるよう、内容や実施方法を工夫し充実させる。 イ・校内環境や施設を整備し、体験入部やクラブ発表会等を活用して部活動加入率の向上をめざす。 (2) ア・人権教育計画の改善を図り、人間関係の構築やSNSの課題などについて早期に取り組む、繰り返し実施する。 ・様々な人権問題(子ども、同和問題、男女平等、障がい等)の解決につながる教育活動を推進する。 イ・配慮の必要な生徒等について、人権教育推進委員会、教育相談委員会を時間割に組み入れ定期的に開催する。 ・SCやSSW、外部機関との連携を組織的に行い、個別の支援を適切に行う。また、ヤングケアラーの可能性のある生徒の状況把握を適切に行い、教育活動における必要な支援を図るとともにSCやSSWとの連携を行う。 (3) ア・体育祭や文化祭などに地域の幼、小、保育所の児童等を招待しての交流活動等の企画、運営を生徒に行わせる。また、保育所等の行事に参画し協働することも実施していく。 イ・地域コミュニケーションコースの授業における地域の外部人材の活用や施設訪問、施設等と連携した活動や実習などを積極的に実施する。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「金剛高校の教育に満足している」の肯定率78%以上。(73.7%) ・学校教育自己診断(生徒)「クラスやクラブは一人ひとりが尊重され、気軽に話せる集団である」の肯定率87%以上。(83.0%) イ・部活動の加入率を57%以上。(55.2%) (2) ア・学校教育自己診断(生徒)「人権について学ぶ機会があり、さまざまな人権問題が理解できるよう工夫されている」の肯定率90%以上。(80.6%) イ・人権教育推進委員会、教育相談委員会等を定期的に開催し、生徒情報の把握、共有及び個別の支援計画等の検討を組織的に行う。 ・SCやSSWを活用し、効果的な対応および状況改善を図るとともに、当該ケースについて研修等により共有を図る。 (3) ア・学校教育自己診断(生徒)「授業や部活動などで、他の学校や地域の人々とかかわる機会がある」の肯定率63%以上。(59.3%) ・地域のあいさつ運動・清掃活動等に継続参加 ・地域の義務教育諸学校等との連携会議等も活用した情報発信5回[2回] イ・近隣の学校園、保育所や介護施設等と連携した活動機会の増加と連携内容の充実	(1) ア・「金剛高校の教育に満足している」の肯定率78.4%。(○) ・「一人ひとりが尊重され、気軽に話せる集団である」の肯定率85.9%以上。(△) イ・部活動の加入率58.8%。(○) ※「学校行事は楽しい」の肯定率が大幅に向上し、行事への参加意識は上がっている。 88.6%(+30) (2) ア・「人権について学ぶ機会があり、工夫されている」の肯定率87.2%(△) イ・人権教育推進委員会、教育相談委員会等を定期的に開催し、生徒情報の把握、共有及び個別の支援計画等の検討を組織的に行う。(○) ・SCやSSWを活用した研修を1回、ケース会議を5回実施、教員の対応改善につなげた。(○) (3) ア・「他の学校や地域の人々とかかわる機会がある」の肯定率64.6%。(○) ・地域のあいさつ運動・清掃活動等に継続的に参加(3回)(○) ・地域の義務教育諸学校等との連携会議等も活用した情報発信7回(○) イ・近隣の核施設の連携は当該施設の各状況に合わせて実施(△)

府立金剛高等学校

3. 規範意識の醸成と自主性・主体性の育成	（１）理解納得に基づく生活習慣の形成、規範意識の醸成に係る取組みの推進 ア 生徒理解にたった個に応じた生徒指導の充実 イ 遅刻指導の工夫と授業規律の確立 （２）共生推進教室の取り組みの充実 ア 共生推進教室で学ぶ生徒への指導と進路保障 イ 共生推進教室で学ぶ生徒とともに活動することによる、共生社会への意識の醸成	（１） ア・画一的な罰則によらず、対話を重視した生徒指導を徹底することで、理解、納得しルールを守る意識を醸成する。 ・生徒の状況把握、理解、共有により、生徒や保護者の思いをくみ取る生徒指導を進めていく。 イ・授業の大切さやともに学ぶ意識を醸成することで、授業中の私語等を減らし、授業規律を確立させる。 （２） ア・共生推進教室の生徒との対話を重視した丁寧な指導により、社会参加に向けた意識、意欲を育てる。 ・企業担当者との対話、連携も丁寧に行い、実習等が真に生徒の有益になるよう努める。 イ・共生推進教室の生徒とともに学ぶこと、行事を行うことを通して、他者理解や自身の行動について考えさせる。	（１） ア・学校教育自己診断(生徒)「学校生活全体に対する先生たちの指導は、自分やみんなの将来を考えると適切である」の肯定率73%以上(68.8%) ・学校教育自己診断(生徒)「遅刻・頭髮・服装・原付免許の指導は、自分や全体のことを考えると適切だと思う」の肯定率65%以上(60.9%) イ・遅刻件数を800回以下とする。(961回) ・学校教育自己診断(教職員)「生徒が集中できるように、授業の規律を守っている」の肯定率93%以上。(90.9%) （２） ア・共生推進教室で学んだ生徒の就労先、進路先の確保100%を維持する。 ・共生推進教室生徒授業アンケート「授業を受けて良かった」の肯定率の維持。(100%) イ・人権侵害事象を生起させない ・クラス活動や学校行事参加満足度の向上(60%)	（１） ア・「先生たちの指導は、適切である」の肯定率76.2%以上(○) ・「遅刻・頭髮・服装・原付免許の指導は、適切だと思う」の肯定率69.9%以上(○) イ・遅刻件数(1205回)(△) ・「生徒が集中できるように、授業の規律を守っている」の肯定率87.9%以上。(△) （２） ア・共生推進教室で学んだ生徒の就労先、進路先の確保100%。(○) ・共生推進教室生徒授業アンケート「授業を受けて良かった」の肯定率100%。(○) イ・人権侵害事象の生起なし。(○) ・クラス活動や学校行事参加満足度77%。(○)
4 教職員の人材育成等	（１）組織的・継続的な育成 ア 教職経験の少ない教職員の育成 イ ミドルリーダーの育成 （２）働き方の改革 ア 業務の工夫・改善 イ 部活動の適正な実施の徹底	（１） ア・ミドルリーダーに教員研修を企画させ、研修内容に合わせた授業研究や分掌業務のＯＪＴを全体で進める。特に経験の少ない教員については、全教員がかかわる機会を設定し、教師力を総合的に高めるとともに小集団の組織を活用した育成を図る。 イ・教職経験年数が10年までの教員を学校組織の中核として配置し、振り返りや協議の場を定期的に設定し育成を図る。 （２） ア・会議の整理、分掌業務のスリム化と効率的な引継ぎの活用等、工夫・改善を促す。 イ・部活動の活動計画の徹底を図る。また、合同部活動も活用しつつ長時間勤務の縮減を図る。	（１） ア・年10回の教員研修の実施[10回] ・学校教育自己診断(教職員)「先生はお互いに協力し合っている」の肯定率85%以上(84.1%) イ・首席、分掌長や学年主任及びその候補を継続的に育成 （２） ア・行事の精選や会議等のペーパーレス化を生かした会議時間の短縮を図る。 ・分掌業務の引継ぎの効率化、教材等の共有化。 ・時間外在校時間が長い教職員への指導。(80時間越えの教員対象に面談を完全実施) イ・部活動の活動計画の遵守・徹底。(100%) ・活動報告書に基づく指導。	（１） ア・教員研修の10回実施(○) ・「先生はお互いに協力し合っている」の肯定率81.8%(△) イ・新首席1名昇任、分掌長は数年先を見通して育成している。 （２） ア・会議等のペーパーレス化などにより会議時間は大幅に縮減。 ・分掌業務の引継ぎの徹底と効率化、教材等の共有化は進んだ。 ・時間外在校時間が長い教職員への面談指導等を適切に実施できた。 イ・部活動の活動計画の遵守・徹底。 ⇒1クラブのみ徹底できず(△)